

# 生活状況に関する実態調査 (ひきこもり等実態調査) 報告書<概要版>

令和5年3月

北九州市立精神保健福祉センター

## I 調査の概要

### 1 調査目的

北九州市のひきこもり等の状態にある方の実態や当事者のニーズを把握するとともに、これまでの市の取り組みの評価や今後の支援のあり方を検討するための基礎資料とする。

### 2 調査対象及び方法

調査① 北九州市住民基本台帳データから無作為抽出した15歳から64歳までの市民5,000人(本人票)とその20歳以上の同居者(同居者票)に対し、質問票を郵送配布、郵送回収した。

調査② ひきこもり等支援機関が関わっている15歳から64歳までの現在または過去にひきこもり状態を経験している本人37人(支援機関経由本人票)と家族22人(支援機関経由家族票)へ、ひきこもり等支援機関を通じ、質問票を直接配布又は郵送配布、郵送回収した。

### 3 調査期間

令和4年2月

### 4 回収結果及び回収率

調査① 本人票 1,951人(39.0%)

調査② 支援機関経由本人票 31人(83.8%)

支援機関経由家族票 22人(100.0%)

## II 結果の概要

### 1 北九州市における広義のひきこもり群の状況（調査①：無作為抽出分）

#### （1） 広義のひきこもり群の定義

本調査では、内閣府調査<sup>注)</sup>に準じ、広義のひきこもり群の定義を以下のように定めた。

本人票「ふだんのくらい外出しますか」の問いに、下記5～8のいずれかと回答し、かつ、その状態となって6か月以上経つと回答した在宅者。

- 5. 趣味の用事のときだけ外出する
- 6. 近所のコンビニなどには出かける
- 7. 自室からは出るが、家からは出ない
- 8. 自室からほとんど出ない

ただし、次の者を除く。

- ア) 自由業・自営業を含め、現在、何らかの仕事をしていると回答した者
- イ) 身体的な病気がきっかけで現在の状態になったと回答した者
- ウ) 現在の状況を専業主婦・主夫、家事手伝いと回答したか、現在の状況になったきっかけを妊娠、介護・看護、出産・育児と回答した者のうち、最近6か月間に家族以外の人とよく会話し、時々会話したと回答した者

なお、除外条件の設問が未記入であり、判断つきかねるものについては除外していない。

#### （2） 北九州市における広義のひきこもり群の推計人数

広義のひきこもり群に該当する者は46人であった。

令和4年3月31日現在の北九州市住民基本台帳による年齢別人口から、15歳から64歳における広義のひきこもり群を推計すると、市全体で約12,400人となった。

	【該当 人数(人)】	【有効回収数に 占める割合(%)】	【北九州市の 推計数(千人)】	
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する	16	0.82	4.3	準ひきこもり 約4,300人
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	19	0.97	5.1	
自室から出るが、家からは出ない 又は自室からほとんど出ない	11	0.56	3.0	狭義のひきこもり 約8,100人
計	46	2.36	12.4	
				広義のひきこもり 約12,400人

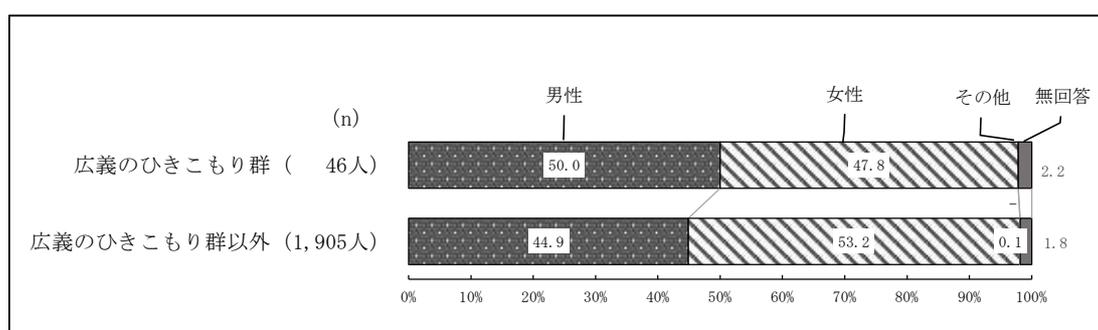
単位未満は四捨五入してあるため、合計の数字と内訳の計が一致しない場合がある。

注) 内閣府「若者の生活に関する調査」(平成27年)、及び、「生活状況に関する調査」(平成30年)

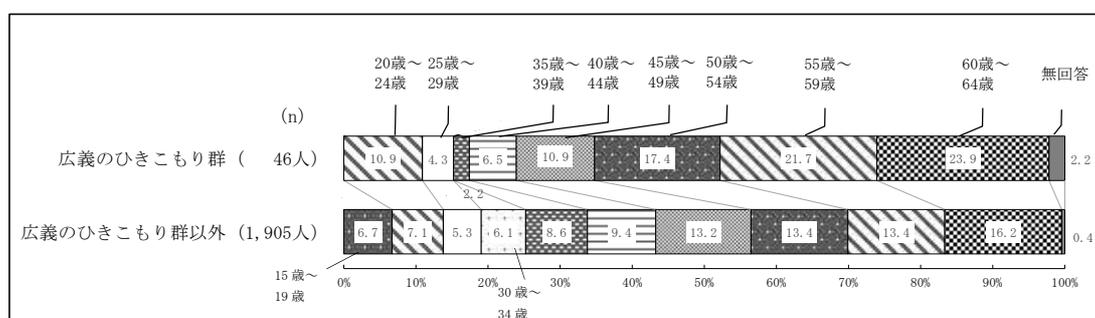
### (3) 広義のひきこもり群の属性

- 性別は男性と女性がほぼ同じであり、年齢は50歳以上が6割以上と、年齢の高い者が多い。
- ひきこもり状態になってからの期間は、2年から3年未満と5年から7年未満が最も多いが、2年未満の者や20年、30年以上と長期にわたる者など様々である。
- ひきこもり状態になった年齢も、40歳～44歳や55歳～59歳が多いが、15歳から64歳まで全体的に分布している。ひきこもり状態となる年齢も様々である。
- 主生計者は配偶者が30.4%、生活保護が17.4%であった。
- 暮らし向きについては、約半数が苦しい（「やや苦しい」「たいへん苦しい」と回答した）。

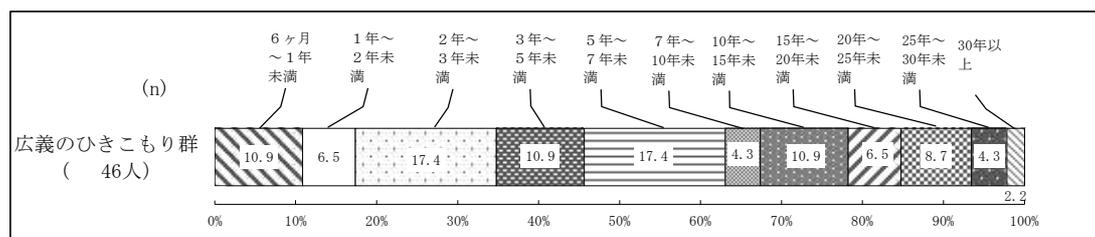
【性別】



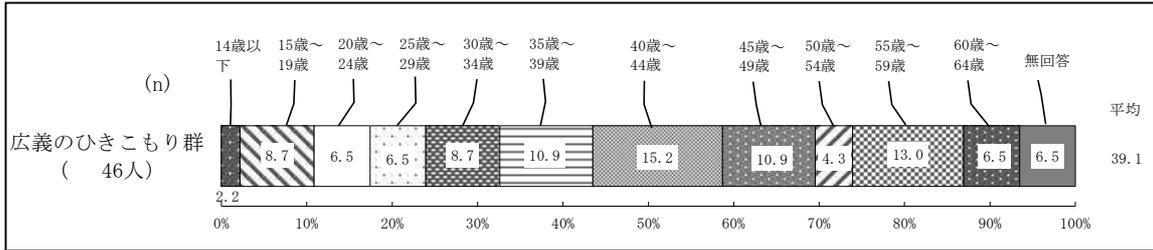
【年齢】



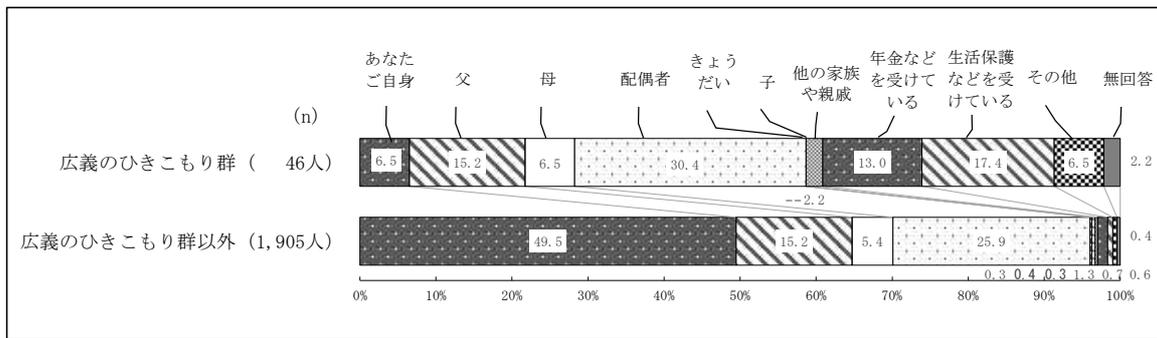
【ひきこもり状態になってからの期間】



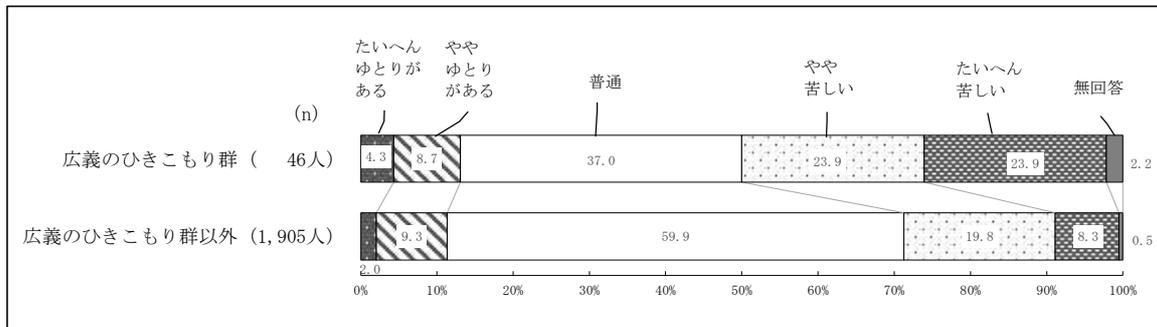
### 【初めてひきこもりの状態になった年齢】



### 【主生計者】



### 【暮らし向き】

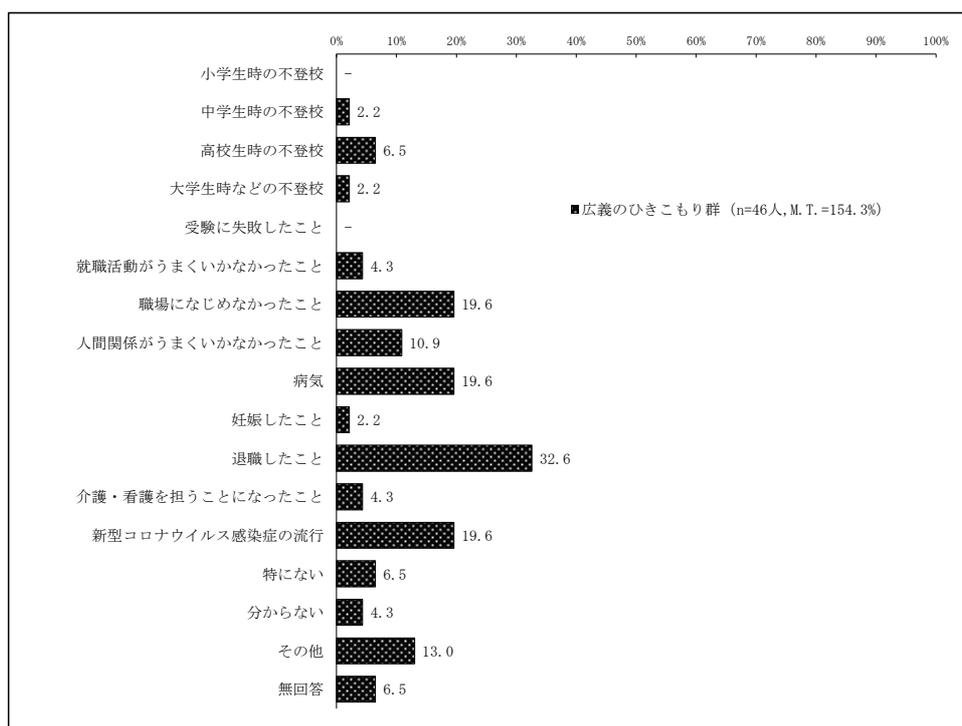


#### (4) ひきこもり状態になったきっかけ

広義のひきこもり群が、ひきこもり状態になったきっかけを問うと、「退職したこと」が32.6%であり、次いで「職場になじめない」「病気」「新型コロナウイルスの流行」が19.6%であった。職場になじめず退職し、ひきこもり状態となっていると思われる例もあり、これらは年齢が高くなってからひきこもり状態となる要因と考えられる。

【ひきこもり状態になったきっかけ】

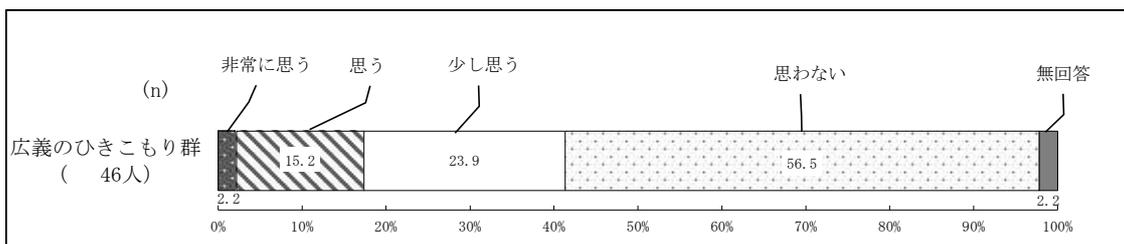
※複数回答



#### (5) 現在のひきこもり状態の相談意向

現在のひきこもり状態を相談したいと思う者（「非常に思う」「思う」「少し思う」と回答した者）は41.3%、思わない者は56.5%であった。相談に消極的な者の割合は高く、介入については慎重さが求められる結果と言える。

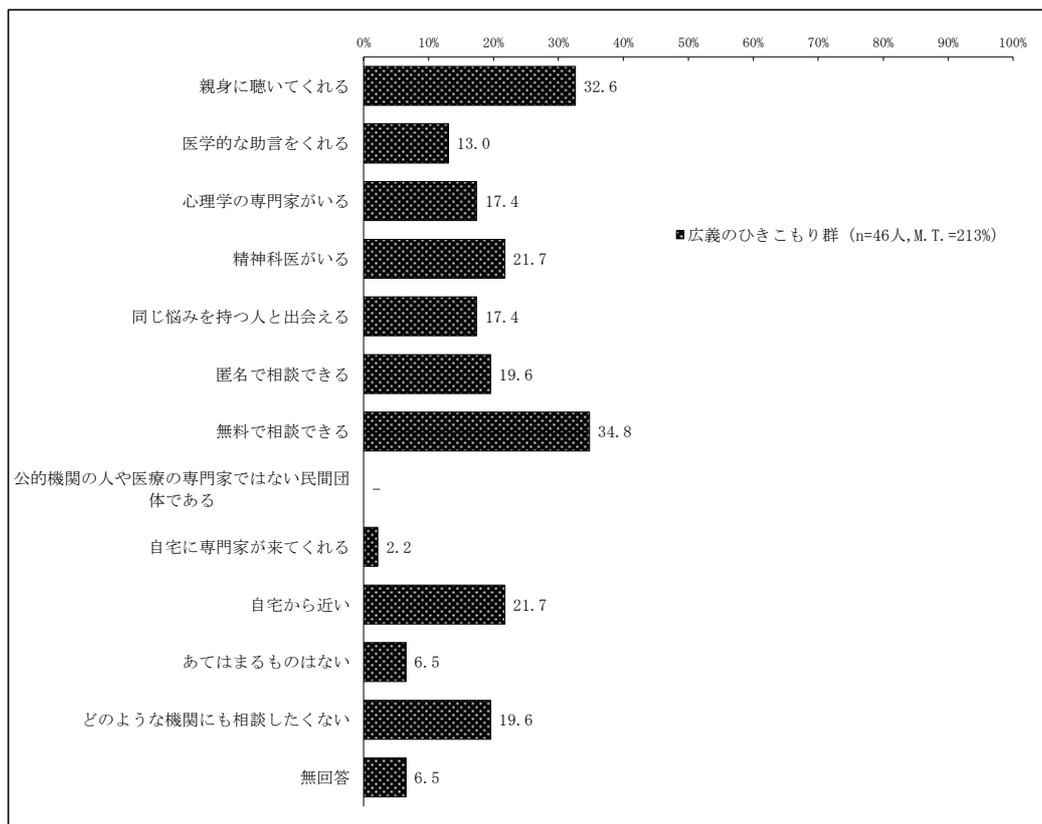
【ひきこもりの状態について、関係機関に相談したいか】



## (6) ひきこもり状態を相談したいと思う機関の条件

ひきこもり状態を相談する機関に求める要素として、「無料で相談できる」が34.8%、次いで「親身に聴いてくれる」が32.6%であった。経済的な負担がないことや心づかいのある相談を受けられることが望まれている。

【ひきこもりの状態をどのような機関なら相談したいか】※複数回答

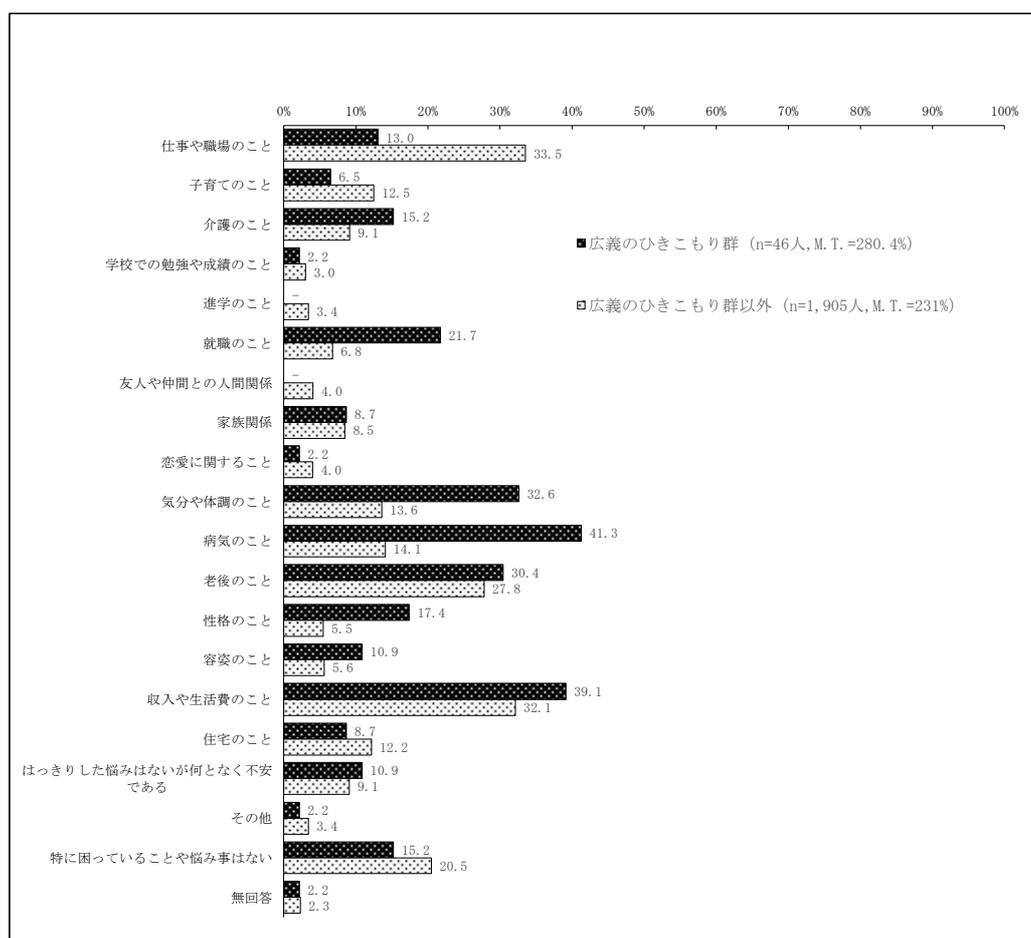


## (7) 困りごとや悩んでいること

- 広義のひきこもり群では「病気のこと」が 41.3%であり、次いで「収入や生活費のこと」が 39.1%、「気分や体調のこと」が 32.6%であった。
- 広義のひきこもり群以外では、「仕事や職場のこと」が 33.5%であり、次いで「収入や生活費のこと」が 32.1%であった。
- 広義のひきこもり群と広義のひきこもり群以外では、「仕事や職場のこと」、「就職のこと」、「気分や体調のこと」、「病気のこと」において差が大きくなっていた。

【困っていることや悩んでいること】

※複数回答

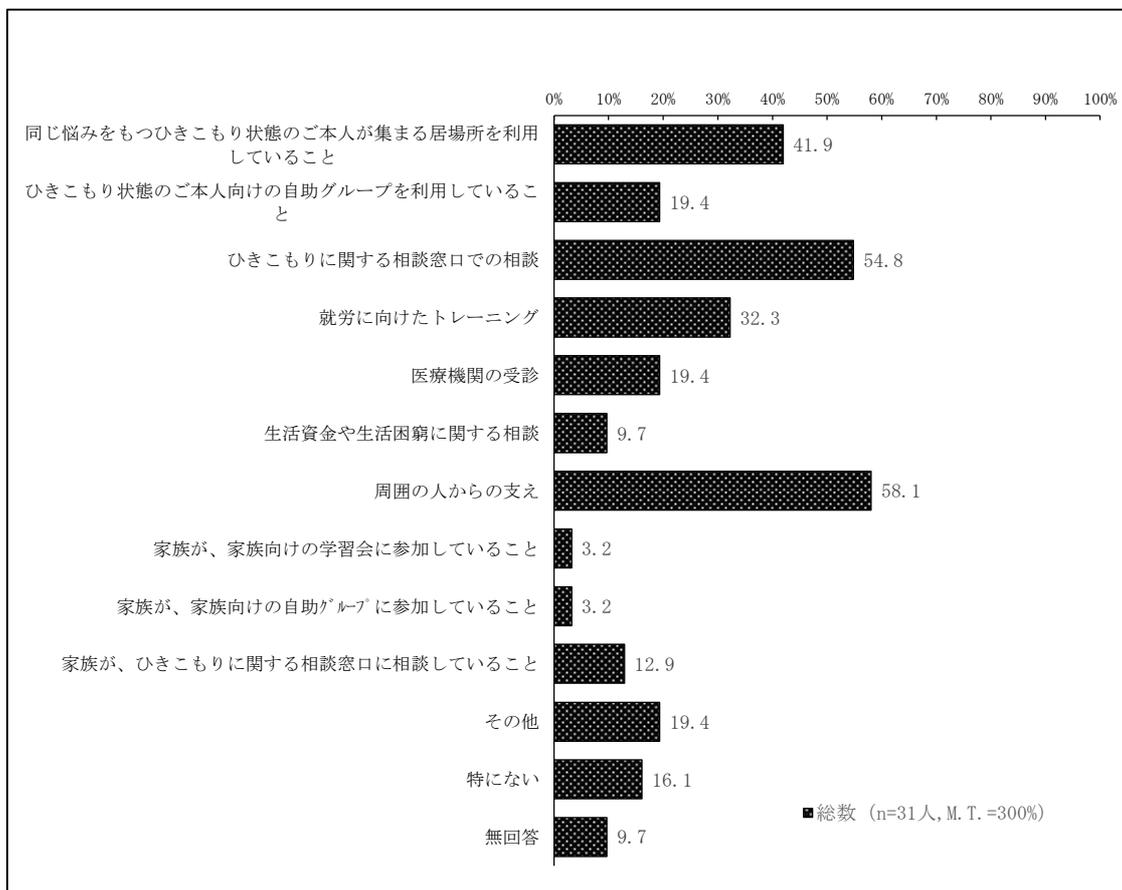


## 2 今後の支援の方向性（調査②：支援機関経由）

### （1） ひきこもりの状態の変化に役立っていることについて

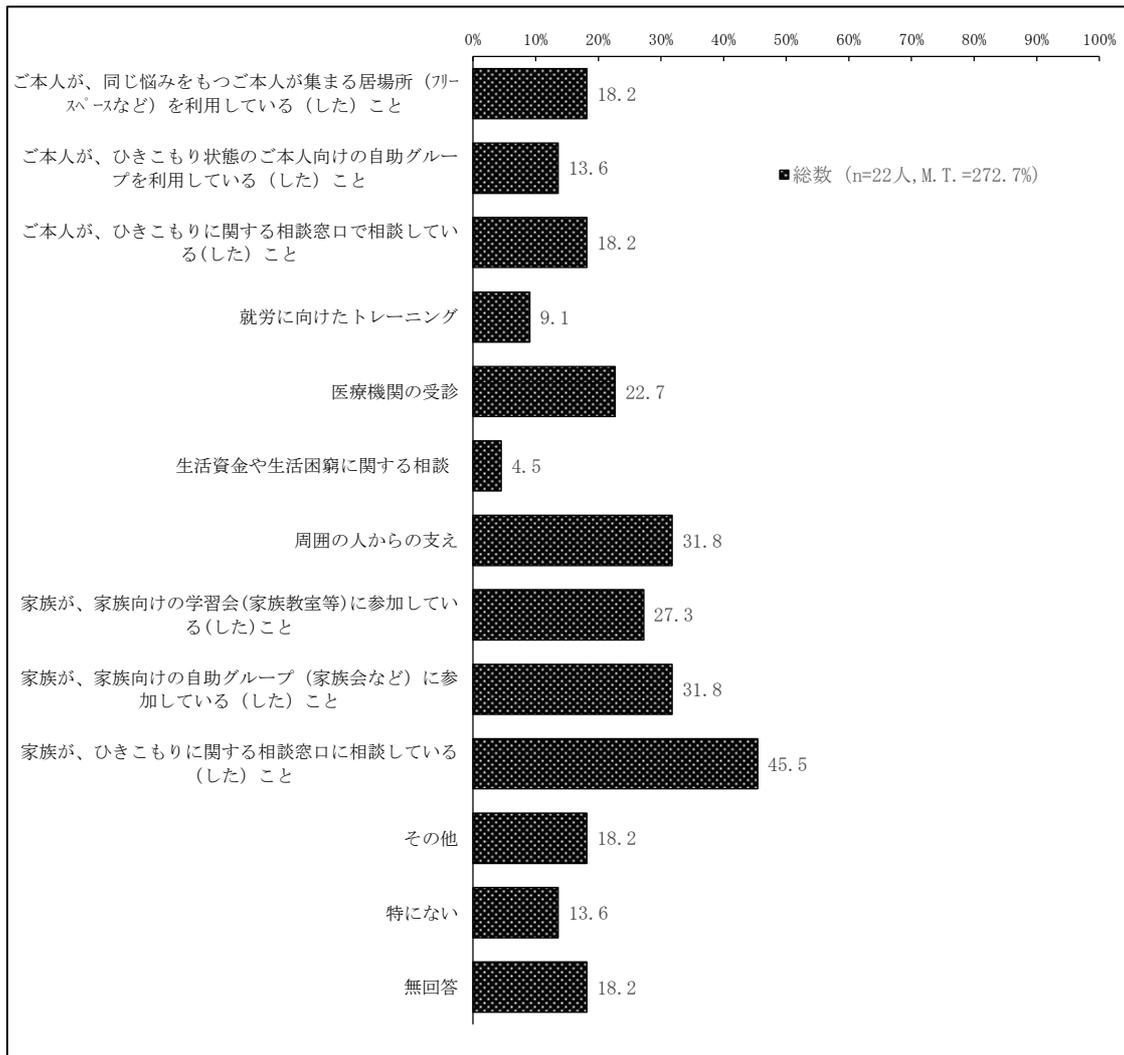
- 本人の回答では、「周囲の人からの支え」が58.1%であり、次いで「ひきこもりに関する窓口での相談」が54.8%、「同じ悩みをもつひきこもり状態のご本人が集まる居場所を利用していること」が41.9%であった。
- 家族の回答では、「家族が、ひきこもりに関する相談窓口相談している(した)こと」が45.5%であり、次いで「周囲の人からの支え」「家族が、家族向けの自助グループ(家族会など)に参加している(した)こと」が31.8%であった。
- 既存の居場所及び相談窓口はひきこもり状態の変化に有効と考えられる。

【調査②本人：ひきこもり状態の変化に役立っていること】※複数回答



【調査②家族：ひきこもり状態の変化に役立っていること】

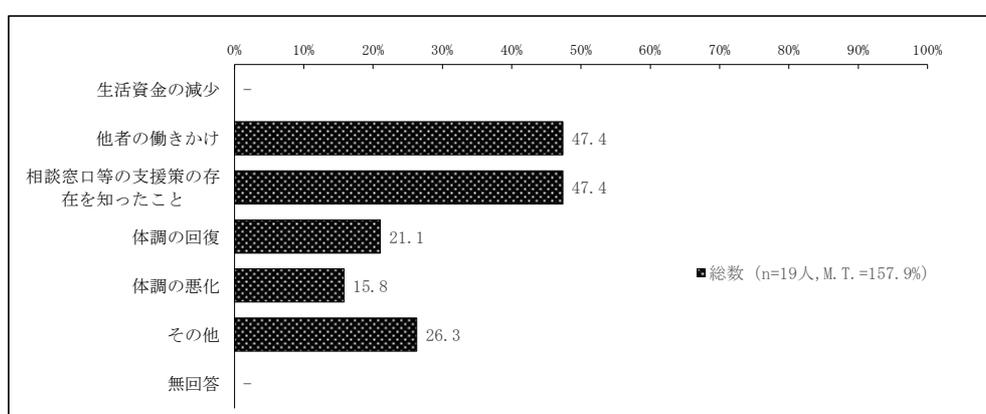
※複数回答



## (2) 望まれる支援について

- ひきこもりの状態を変化させるのに、何か行っている（行っていた）ことがある者を対象に、「変化させる行動のきっかけ」を問うと、「他者の働きかけ」「相談窓口等の支援策の存在を知ったこと」が47.4%であった。
- 自由意見では、訪問による支援・長期的な支援、地域資源の活用、広報の方法等の意見が寄せられた。また、「ひきこもり」への捉え方は様々であるが、偏見に苦しむ意見も見られた。
- 既存の相談窓口や地域の資源が当事者の耳に届くことはひきこもり状態の変化のきっかけとなるものである。既存資源の周知など広報の拡充が必要と考える。また、ひきこもりの正しい理解を進めるため、啓発活動が続けていくことも必要である。

【調査②本人：ひきこもりの状態を変化させる行動のきっかけ】 ※複数回答



【調査②本人：ひきこもり支援についての考え】

(一部抜粋)

- 市民に身近な区役所に、ひきこもりの相談窓口があるといいのではないと思うが、区役所には対応できる福祉の専門職が少ないように感じている。ひきこもりについて、人々の偏見や誤解があるように感じている。ひきこもりについての理解・啓発をもっと行ってもらいたい。一度ドロップアウトしてしまうと、戻ることが難しい社会になっている。そのような社会の中、ひきこもりの方が孤立しないよう、つながることができる場所（資源）や、助けてといえる場所が沢山ある北九州市であってほしい。
- ひきこもりから出ると決断するのは最終的には本人だと思う。「ひきこもり=悪いこと（悪いことをしている）」の世間の雰囲気があるため、外へ出やすい世の中になればいい。病院と福祉サービスと本人が上手に使えるようになるのも必要だと思う。
- 私は支援機関や制度などを知ることができたが、まだあまり知られていないように思う。それぞれの人で事情は異なると思うが、少しでも楽に生きていけるよう、生きやすくなるよう願っている。調査をしてくださり、ありがとうございます。支援の形を模索してくださることに感謝している。
- 様々な方と話し、考えて出た結論として、最も効率的な支援方法は「相手が抱えている問題を分析し、その人のペースに合わせて支援を行うこと」だと思う。
- ひきこもりも人の個性のひとつなので、無理に出る必要はないと思う。

### 【調査②本人：望ましい支援のあり方】

(一部抜粋)

- 家庭に問題のある人が暮らせるシェルターなど。趣味や勉強などの活動ができる居場所。気軽に定期的な近況報告、相談ができて、支援につなげられる場所。保護者や家族からサポートが得られなくても、参加、利用できる支援のかたち。
- 若年者に限らず、年齢制限をつくらない。「私たちは40歳を超えてるから利用できない」という声をよく聞いた。働くことにつながる場がもっと増えてほしい。
- ひとりに対して医師も含めたチームによる協力体制、精神疾患者に対する無料のカウンセリング、支援者の該当者へのこまめな訪問など。
- 金銭的な支援は必要ではないかと思う。ひきこもりから抜け出し、活動するためには「支援」を受けること、「行動」すること、「体験」すること、「相談」「居場所」できる所があることが不可欠。お金が無いと動けない。
- 長い目で見てくれる場所。色々な機関につなげてくれるところ。

### 【調査②家族：望ましい支援のあり方】

(一部抜粋)

- 相談に行ける人はいいが、家から出られない人や、人とのコミュニケーションがうまく取れない人のために、支援者が訪問、または、話し相手になるということが必要ではないかと思う。そのためには、もっと支援センターの人員を多くしてくださることを願う。
- 地域の民生委員等相談できるシステムにしてもらう。本人の状況を把握してもらい「どうしてますか？」と声かけしてもらえたらよいと思う。
- 当事者が元気になることが大切なことだが、親がまず元気にならなければ何も進まない。親が元気になれるよう、親の会が増えたらいいと思う。
- 支援の内容も大切だが、まずは本人や家族が多くの支援策があることを知り、勇気をもって、一歩を踏み出すことだと思う。その為にテレビ、ラジオ等の一般的メディアによる情報提供を拡大してはどうだろうか？
- 自宅にいても住んでいる地域のイベント活動等の存在が把握でき、いつでも参加できるような体制を作ってほしい。
- 人と接することが嫌いな人でも、人のために誰かのためにできることができる場所があればと思う。
- 「ひきこもり」という言葉が辛い。もっと他の言葉があれば他人にも言いやすい。

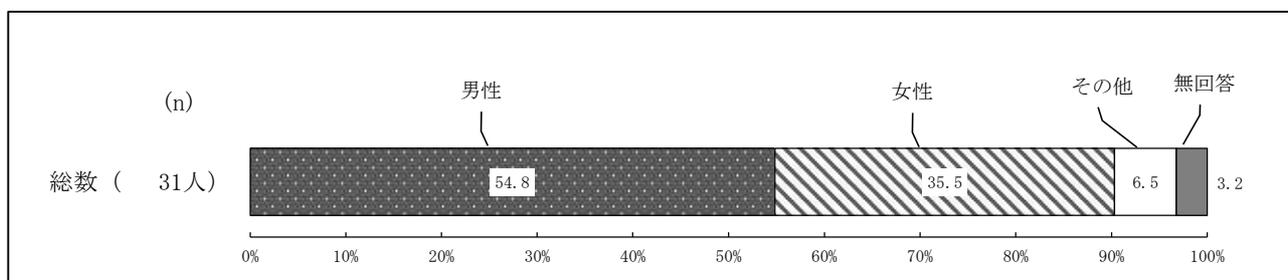
## <参考1> 支援機関経由本人の属性 (調査②)

### 1 配布条件

ひきこもり等支援機関が支援等に関与している者のうち、現在または過去にひきこもり状態<sup>注)</sup>を経験している15歳から64歳までの者。なお、北九州市民に限る。

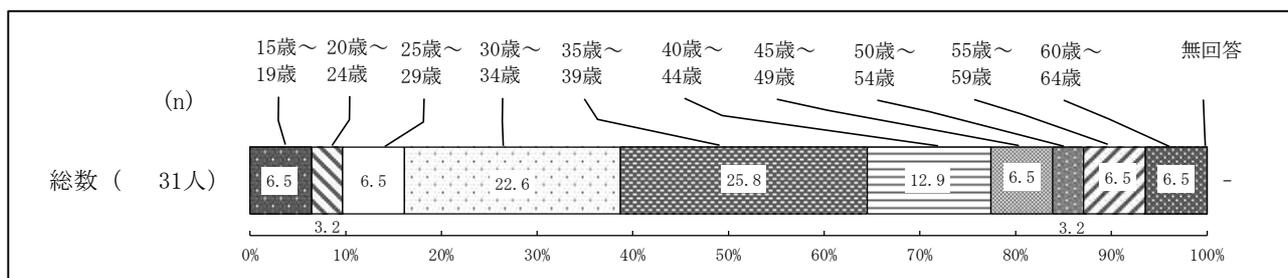
注) ここでいう「ひきこもり状態」とは、厚生労働省「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」(2007)に則り、「様々な要因の結果として社会参加(義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など)を回避し、原則的には6か月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態(他者と交わらない形での外出をしてもよい)」とした。

### 2 回答者の性別



回答者の性別は、男性が54.8%、女性35.5%、その他が6.5%であった。

### 3 回答者の年齢



回答者の年齢は、35歳～39歳が25.8%であった。

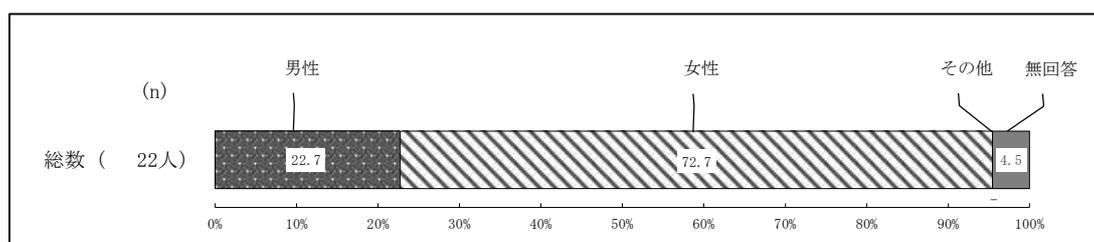
## <参考2> 支援機関経由家族の属性（調査②）

### 1 配布条件

現在または過去にひきこもり状態<sup>注)</sup>を経験している15歳から64歳までの者（本人）の20歳以上の家族で、ひきこもり等支援機関が支援等で関与している者。本人との同居、別居は問わない。なお、本人、家族は北九州市民に限る。

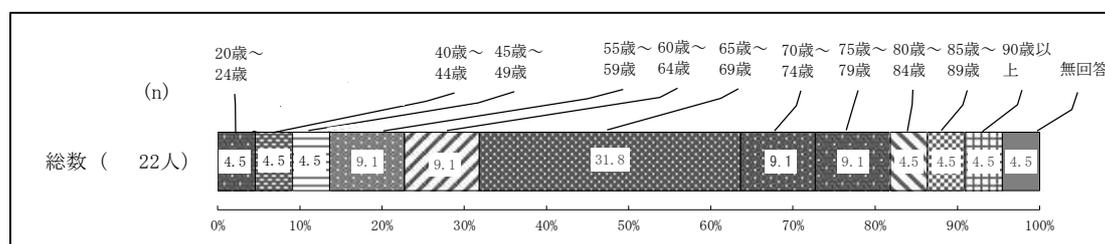
注) ここでいう「ひきこもり状態」とは、厚生労働省「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」（2007）に則り、「様々な要因の結果として社会参加（義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則的には6か月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出をしてもよい）」とした。

### 2 回答者の性別



回答者の性別は女性が72.7%、男性22.7%であった。

### 3 回答者の年齢



回答者の年齢は65歳～69歳が31.8%であった。